京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金三錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄外別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久錦一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話 六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

寄書

人類學者泰斗スター博士來る（三）

旗軒學人

△朝鮮研究篤志家と語る▽

博士は先つ三宅君を其官邸に訪へり、三宅君博士を引て西洋應接室に招せり初對面の挨拶を交換し、主人は何にも珍客に電覧を請ふべき程のものなく然も態々訪問の厚意を謝する旨の謝詞に對へて客は余は朝鮮に關しては何等の知識なく爲めに此度此地に來遊したるものなれば如何なるものにても余に取りては研究の材料ならざるなし依つて請ふ如何なるものにても朝鮮研究に關するものは之を示されんことをと、茲に於て乎主人は二階の日本室に入來ありたし、然も疊の上にては客は困却ならんと客笑ひて答へて、否とよ、余は日本の青年の何れよりも永く膝を屈して坐し得べしと、主人曰く然らば萬事可なり請ふ來れと客主人に從ひ二階の一室に入れは室内清楚、裝置端然として主人の嗜好の清高なるを示す、客坐褥圍の上に儼然として膝を屈し坐し主人の示すものを待つ、主人は已に室の一隅に數ヶ年間蒐集を勉めし、大、小の鏡を陳列し而して客の展覽を待ち、且つ一々其説明を試む、客は天下の鴻儒なり、其質問能く要を得、更に主人は一方の押入の鞘を開き特に鏡の保管の爲めに新調せし架上より古鏡を取つて客に示す其數凡そ二百數十而して之れ皆殆んど種類を異にするもの客は愈々興に入り一々手に取り之を檢し、或は其裏面模樣の意味、其年代等を質問し日人にして斯の如き朝鮮研究の爲めに志篤き主人公の如きあるを朝鮮の爲めに祝すと言を述べ古鏡研究に關する日本及び支那に刊行されたる古今の書物なきやを問ひ主人は日本にて著述されしものは殆んど之れなし、只此迄雜誌等に出でたる斷篇のみと云ふ而して支那にては已に之れあり今其一つはと、主人公は立て書架より數冊の製本端麗なる漢文の書を持ち來り、客に示さんとし且つ之に必ず博士の已に所有せらるゝ所ならんと、客其書名を一瞥し然り然り余已に之を得たりと、已にして主人公は一問を發して曰く博士の研鑽せらるゝ所により、古鏡と云ふ立場より見て東西兩洋の文明の接觸するものあるを發見さらるゝやと客直ちに答へて曰く余は東洋に於て古鏡に於ける東西文明の接觸點はペルシャに於て發見す、と而して其證據の一端にして鏡の裏面の模樣のペルシャ鏡と支那古鏡と類似せる時代あり云々と、時に婢あり客に茶を呈す客之を受く而して傍より西洋人には余り濃厚ならずやと思ふ間に客喫了す、其様少しも邦人に異ならず、以て博士の能く日本の事情に通せらるゝを知る時已に一時間半を過ぎし尚前約の履ひべきあれば、博士は主人公の厚意を篤く謝し、家を辭し、電車に搭して旭町一丁目に急行す、途上博士は先に三宅君に言ひし言を繰返へして曰く朝鮮を研究する篤志家あるは實に朝鮮の爲めに祝すと

雜錄

朝鮮史蹟 倭城臺（下）

京城南冥生寄

之より先、小早川隆景開城に在り獨り京城に退くを肯んせずして曰く吾れ太閤の命を奉じて此地を守る未だ明軍の旗をも見ずして退かば何の面目ありて復た殿下に見へんやと、浮田秀家等之を如何ともすること能はず之を倭城臺に議す大谷義隆曰く、よし然らば吾自ら開城に行て連れ歸らんと若手の家人を隨へて開城に向ふ、吉隆疾驅開城に至り隆景に面し諄々として利害を説くこと詳なり、隆景默然として頷けば宗茂等も之に應じて左らば引取り候はんと兵を收めて吉隆と共に碧蹄館に退く、吉隆は縱横の論士也蘇張の辯を振ひしには相違なきも倭城臺に在りし將の實際の權威は浮田等の上に在りしを想察するに難からざる也。既にして小早川隆景明の大軍を碧蹄館に破りしと雖も明韓の軍我に冠するもの衰へず、時に我軍糧食に窮し而して明軍と共に大に疲す倭城臺將軍諸將の屢々を歴して和議を爲し、浮田秀家、毛利秀元をして兵を引て兩に歸らしむ、京城山河の固め始めて解けて宣祖大王城に歸るを得たりと雖も昌德宮及景福宮の一部は既に京城自國の亂民に燒かれたり城内の荒涼民心の離散國王としての面目何くにありや。萬骨黄土に枯れて三國の將帥功成り歸るものありや爾來秋風春雨三百年倭城臺は我武人が王都を占領せし一場の夢の紀念のみ、英雄の功業も十萬貔貅の活躍も三百餘年只遂に夢を語るに過ぎざりき。地球幾たびか回轉したりき國家民族の榮枯盛衰か期せずして來る如く天運の挽回も亦歳月を以て論ずべからず、吾人の遠祖が血を踏み旗を捲いて呑まんとせし朝鮮は今や談笑の間に併合せられたり、其輕重難易素より時勢の然らしむる所とは云へ抑も亦歴史的一種の連鎖の然るものなくんばあらず朝鮮總督府は今や毅然として倭城臺に屹立し十三道天下の政令一に此府に出づ朝暾鮮かに東海より出でて倭城臺の日章旗を照らすの時誰か今昔の感に堪へざるものあらんや此處の總督たる軍帥の得意可想也。倭城臺の上より四方の風光を眺望すれば漢山は北方に聳ゆ漢江は市外を流れて眞に山河襟帶の地なり李成桂高麗を亡ぼして初めて國を建つるの時武威堂々として四隣を拂ひき誰れ亦李朝の衰滅を思はんや北漢山は昔ながらに高く漢水は洋々として長へに流る、吾人は此歴史的形勝の地位を占めたる倭城臺が益々雄威にして華麗なる歴史を後昆に殘さんことを期せるもの也。

日本官製煙草大賣出
景品一千圓
敷島 大和 芙蓉 朝日
九月十九日より十月三十日迄

外事一束

△革命● 軍猖獗漢陽漢口已に陷り湖南長州岳州亦危し自ら義勇軍と稱し列國に向つて嚴正中立を希望し戰時國際法に據らんとす北京は警戒嚴にして

△朝廷● 狼狽し陸海軍大臣急に趣く或は大事之より發せん乎風邪逆賭す不可

△獨民● は一般に佛領公果の代價を得るも格別の價値なしとして頗る冷淡也

△伊軍● ソブルクを占領す同地マルタと對抗しスエズ運河を支配し易き處也

△新土● 國外相はトリポリ行政權を伊に讓り主權保持を基礎として談判せん

△英國● 大使旅順大連奉天を經て二十二三日頃安東縣を過ぎ京城に來らんと

梁川庄八（やながはしやうはち）

小金井蘆洲演

第十二回

語を更めた馬平 馬「若樣……お前樣も何卒御父上樣の御武勇に肖からしやつても、御短慮の所は肖かつて下さいますな、甚うも今日の佛樣は若樣の前だけれ共御短慮でございましたなあ……俺が未だ若い時分でございましたが、此阿隈川の轟ヶ淵の女夫ヶ淵と云ふ所、其處の深い所は渦を卷いてハア實に身の毛の竦立つ位の深い淵でございます、其女夫ヶ淵には昔から云傳へますが水魔が住んで居ると云ふ事であす、所が毎年夏になると若者等が水を浴びに行くと、乾度一夏に五六人位ヅゝは其所へ引込まれて終うだ、水魔に捲込まれて死骸が浮かんだ例がねへだ、夫を御先代樣が聞かしつて、乃公が領分内に夫んな不都合な事があつては困る、領分の者が毎年五六人ヅゝも命を棄ると云ふのは何うも聞捨にならねへ、女夫ヶ淵の上下を堰ぎつて水を落して搔干にして其實證を見屆けてやる、と仰しやつて夫からハアー御先代樣の御下知で、川沿の者が百人斗りで川上川下へ堤を築いて土俵を積み水車を掛けてドン／＼水を搔出して、モー八分通り干して來たと思ふさ、一天俄に曇つて細繩のやうな雨が降つて來て、忽ち堰は切れて又元の通りに成て仕舞ひました、據ないから又日を改めてやると又雨が降り出す、三度共斯う云ふ譯だから不思議の噂を立て四度目には御斷をすると云ふ譯、御先代樣は剛情な方だから是非がねへと云つて、棒火矢杯を打込んだだけだ、退治が出來ず了いで止めになりしたが、夫から後ちは水魔を彼樣に困らしめて何か祟りがなけりやあ宜いがと云ひましたが、其後御先代樣が七年前の今月今日不慮の御最期をなさゐましたのも陰では何でも水魔が祟つたんだろうと專ら噂をして居りますだ、夫だから若樣も人が止めたら剛情を張らず、餘り武勇をれ振いなさいますなよ、是れは馬平が老婆心から御意見致ますからね」濟盧朴訥の老爺が言語を盡しての長意見、聞居たる庄八正國、水魔杯と云ふ者が世にある者か、畢竟無智無識の者か斯る噂を立てゝ愚夫愚婦を惑わすのだ、實證を見屆けて世人の疑念を晴して與んと思ましたから、夫となく威儀を正して馬平に向ひ 庄「馬平初め一同、乃公は父の法要に際して珍らしき話を聞た、父が退治を企て仕終せずに了たつは嘸殘念で有たろう、又父に祟たつとすれば其水魔とやらは父の敵の片割れと思はねばならん、取分けて乘人を艱ますと聞いては棄置き難い庄八是より女夫ヶ淵に罷り越して其水魔とやらを、退治なし世人の惑を晴し領内の百姓の患を除いて遣はし、父の追福の手向と致す一同倶に來て見物致せ」と以前に變る勇氣の有樣、馬平初め一同驚いた 善「夫だから止せと云つたのだ馬鹿な爺いだ、モシ若樣れ止り成すつて」馬「夫んな事のねへ樣にて御話をしただに若樣御止しなせゑまして」と騒ぎだす、岩沼の德兵衛も倶に止めるのですが聞入ない 庄「イヤ止め立致すな……定めし魚龍の類の仕業であろう、此庄八左樣な者に打勝つ事が出來ん樣では天下に名を成す事が出來ん、我れ幸ひに水練の術を學んである正法に不思議なし、イザ水魔を退治してくれん」と唱名寺を立出る、據ないから村人一同跡から付いて行く、阿武隈川の轟ヶ岳の女夫ヶ淵有名な處です現今は蓄飼は些しも有りません、誰やらが「陸奥に轟き渡る妙な淵今來て見れば香無ヶ淵」と詠じました、十月三日の薄暮轟ヶ岳から吹下す風は凄まじく水色青く渦卷き渡り身の毛の竦立つばから、勇氣凛々たる庄八、衣類を脱いて素肌に腹帶を縮め、家傳の一刀を確と帶び、用意して持つて來し綱を腰に付け、端を岸邊の岩頭に結び付け 庄「一同乃公が水中に這入て此綱を曳ひたら、夫を相圖に一同で引張つてくれ」と云畢て身を躍らしてドブン……付隨つて來た百姓は何れも庄八の勇膽剛情に驚き呆れて、只腰繩の相圖を片唾を呑んで待て居ります中に、水面忽ちガブ／＼／＼と音がしたと見る間に紅を出しました、其血醒き香が致します、一同「ヤアー夫れ若樣が水魔の爲に喰はれなすつたちやあねへ」かと云てる内に繩を強く水中で引きましたから、一同「ソレ」と一同が引張ると、稍あつて庄八は水中より口に國俊の刀を吹へて跳上りました。

廣告

一手販賣
煖爐用煉炭
右三井物產株式會社京城出張所に一手販賣を約し發賣せしむ
平壤鑛業所

平壤鑛業所にて其採掘に係る無烟炭を原料として製造相成たる煉炭の一手販賣を弊社に御下命相成候に付ては多少に係はらず御用命の程願上候
京城本町一丁目
三井物產株式會社出張所
追て左の店に小賣取扱はしめ候間便宜御下命願上候
京城古市町（電話九四一番） 苦米地造酒彌
平壤線町（電話五〇一番） 中村組出張所
鎮南浦東五（電話一〇七番） 中村組

工事の大小に拘らす仕事は凡て確實を旨とし最も懇切に且つ安價に引請可申候間何卒御用命願上候
土木建築 請負業
仁川 棧橋驛前 井上源次郎
電話四三四番

獵銃 獵具 火藥
增戸銃砲店
京城本町六丁目

內務省免許 產婆 內地病院其他に拾數年間實業
曙町六十番地 電話一〇四六
相島しか子

長崎流
志るこ
茶碗むし
むしすし
梅その
南山町三丁目
電話一一八五

愈々鍋の好季節
此頃の寒さではドウしても鍋物でなければ酒は呑めません、それも鍋一座敷が温かくなければならぬ、つぎに座敷の閑靜なのが肝要だ座敷の出來ない樣な座敷では仕方がありません、鍋と云つても千遍一律では無趣味だそれに就いては材料豐富の料理屋でなければならぬ、器物の珍は又味を大に甘くするものです此點に於て最も完全なのは京城に唯一の鍋道樂あるのみです決して手前味噌でありません嘘と思召さば一度來て試めして御覽なさい
旭町二丁目
鍋道樂
電話一四九番

紫いらん掛
大安賣
當用
二十二日より
二十八日まで
京城本町
丸一和洋反物店

北京特電

▲**叛軍の保安令** 湖北の叛軍は武昌漢江の人民に對し負擔保安の令を發したり

▲**張彪の兵戰意なし** 叛亂の武昌を免れ漢口に入りたる張彪の兵二大隊は戰意を有せず形勢を觀望しつゝあり

▲**張彪の進退疑はし** 張彪は江利鄕に於ける兵員の逃走を默しつゝあり彼の進退は益々疑はし

▲**岑春煊再辭退** 岑春煊は健康勝れざるの故を以て四川總督を再び辭退したり

▲**保定軍の輸送** 保定府の四大隊第二鎭の大隊は續々進軍しつゝあり保定停車場に兵站部を設け只今の處にては送兵しあれども一列車約一大隊なり

▲**蔭大臣の出戰** 蔭陸軍大臣は十七日砲數門及び氣球數個を携へ第三師團第五聯隊を隨へ豐太を出發し愈々戰途に就きたり

▲**除川の大激戰** 情報によれば四川の暴徒は勢益々猖獗となり南下しつゝあり嘉定は既に陷落し目下除州に於て激戰行はれつゝあり

▲**檄文配布と避難** 革命黨の檄文北京城內に配布せられ宮中に聞へたるを以て大官の恐慌甚だしく家族は天津地方に避難さるゝもの多し

▲**安化湖鄕の占領** 湖南に於ける革命黨は湖北の革命軍と相應じ安化湖鄕は確實に占領されたり

▲**袁世凱再諭旨** 袁世凱は病に托し總督任命を辭し其の任に堪へずとの電奏せしが攝政王は重ねて懇篤なる諭旨を下し至急湖北に赴任さるべしと命せられたり

▲**列國使臣に通告** 外務部は兩三日中より革命軍を攻擊する旨北京駐在列國使臣に通牒したり

▲**兩廣總督逃走** 南京に暴動起り總督衙門陷落し兩廣總督は僅に身を以て北方に逃走したり

▲**川島司令官の要請** 我が南淸艦隊司令官川島少將は居留民に危害を與へざる樣軍艦を排置せん事を薩提督に要め其の快諾を得たりと

▲**淸廷軍費に苦む** 淸廷は軍費に事を缺ぎ各省に對し納金方を督促せり官叛兩軍の決戰愈迫れり

▲**官軍漢口に着** 官軍は四川省のシンシンケン(不明)嘉定府、叙州を回復反徒は死者二十名を遺棄して潰走せり革命軍指揮官梁元洪は脫走せり六鎭の先鋒隊たる薩鎭永提督の率ゆる軍艦八隻十六日晚夜に乘じて漢口に到着し提督は各國領事に租界地を保護すべく通牒を發したり

▲**川漢邊大臣任命** 趙三豐は川漢邊務大臣に任命されたり

東京電報

▲**陸海軍と外務省** 我が海陸軍兩省及外務省の當局者は十七日祭日なるに係らず出省出務頗る繁劇を極む

▲**袁世凱の進退** 袁世凱氏の進退は尙は不明なり

▲**上海財界の恐慌** 上海に於ける各銀行に對し取付け盛にして至る所紙幣不通となれり

▲**川島司令官** 英、佛、獨海軍は何れも軍艦を逆航せしめ英國司令官は漢口にて我が川島司令官に會合し英の希望にて川島司令官は從前の通り總司令官たり

▲**援軍の東進** 河南の援軍は續々反亂地に向け進軍しつゝあり

▲**四川は一帶無政府** 四川省一帶は騷亂の爲め全く無政府の狀態と化せり

▲**我軍艦の增派** 我が軍艦秋津島は逆航し又驅逐艇數浪も亦派遣さる可く事態頗る不穩なり

▲**伊土事件と各國** 伊太利帝國は飽迄トリポリを併呑せんの野心を抱き其主張を撤退せざる爲め列國は仲裁を見合せり

▲**北京半官報狼狽** 北京政府の半官報たる各新聞紙は革命軍の背後に日本ありて煽動し居れるが如き無稽不法の言論を爲しつゝあり

雜報

●**沿岸定期船の現狀** 去る九月末日調査に依れば朝鮮沿岸を發着する船舶の現在航路としては(一)朝鮮沿岸に限るもの(二)內地を起點として朝鮮に至るもの(三)朝鮮を起點として內地又は外國に至るもの丶四種あり而して目下定期船の配在せるは(一)(二)(三)種航路にして(四)種航路に至りては未だ定期航海を開始するの時運に逢せず定期航路中遞信省の命令に依るものは(二)種及(三)種に屬し朝鮮總督府の命令に依るものは(一)種、陸軍省命令に依る(二)種長崎縣命令に依る(三)種及鐵道院の經營に依る(二)種の各航路あり補助命令に依らず自營を以て定期航海を爲すものは(一)種航路の小區域間に多く他は極めて小數なり今此等の航路に配在せる船舶の大勢を示せば

(一)に屬する	四〇隻	三、七二九噸
(二)に屬する	一七隻	二四、〇五五噸
(三)に屬する	八隻	一三、四二六噸

にして更らに政府の補助命令に依るものと自營のものとを區別すれば左の如し

命令航路使用船(官營船を含む)	二七隻	三三、一一九噸
自營航路使用船	三八隻	八、〇九一噸

前記各航路の主なる經營者は大坂商船會社、日本郵船會社、釜山汽船會社、吉田船舶部、木浦航運會社、秋田商會、尼崎汽船部、川崎船舶部、原田商行、鐵道院等なり

●**英大使入京期** 過般來淸國漫遊中なりし在東京英國大使マグドナルド氏は夫人及令嬢を伴ひ來る二十四日安東縣出發入京の筈なり

●**安奉線開通式** 滿洲鐵道安奉線の開通式は愈十一月一日を以て擧行の事に決定せりと云ふ

●**馬山鐵道製作所** 鐵道管理局に於ては朝鮮全土の鐵道機具一切を供給する目的を以て馬山に一大製作所を創設するに決したるが右は從來草梁龍山兼二浦に製作所を置き列車修理及器具の製作に從事せしが追々鐵道普及の結果更に大規模の製作場を要するに至りしなりと

●**南淸動亂と朝鮮貿易** △進辰馬氏の談▽

△輸入淸國商品 淸商品の輸入さるゝは絹織物を第一とすべし而して之は目下動亂の中心たる武昌の上流の蘇州と稱する處の產物を主とし從て最も影響を蒙るは此品ならんが代用品も多き事故爲に打擊と云ふ程の事なからん此他山東繭位にて數ふるに足らず此等支那品の取扱は支那人多く之に當り居れり△上海經由商品 朝鮮の雜貨商は稅關の關係より直接歐米本國と取引するの多く假令上海が革命軍に冒さるゝとしても居留地にして安全ならば些の影響もなかるべく却て過般來の伊土戰爭が直接にトルコ煙草に響きたるが如き事あり小許の雜貨は上海より購入さるゝものゝあれども論ずるに足らず△對淸輸出品 も支那人の手に依て行はるゝもの多く種類は牛皮、狐狸等の毛皮、麻、人蔘及精米なれども精米は別に滿洲の日本人向にて其他は幾分の影響は免れざるべし新聞に見ゆるも信用制度の破壞したる樣子なれば荷送りも困難ならん然し之を要するに朝鮮の貿易總額に比し僅少のものなれば革命黨の爲直接朝鮮經濟界に及ぼす影響はとり立て云ふ程ならず然し之が爲△大阪との關係 に何程かの影響を見るならんか大坂は既に新聞に見ゆる如く多大の影響を蒙り綿糸は三期を通じて暴落を示す有樣なるが朝鮮も雜貨は多く大阪より仕入るゝ事とて對淸輸出品と同一のものは却て安價に購入するを得可し

△某銀行家の談▽ 南淸の動亂が朝鮮の貿易及び金融界に及ぼせる影響は昨今のところにては殆んど風牛馬相關せずといふも可なり唯綿糸は下落せるが這は自然の勢なるべし又上海の爲替相場も些の變動を見ざるが要するに動亂の如何に依りては影響を蒙るは勿論なり而して京城にある淸商は多くは北淸のものにして南淸とは關係薄し又世人も知る如く滿洲を除き朝鮮より淸國に輸出するものは殆んど何物もなく從つて論議の餘地なし輸入品にあつても上海の變亂にしてなくば打擊を蒙るの氣遣ひはなかるべし

●**仁川附近の地價** 仁川を距る一里乃至三里程の地方に於ける昨今の地價一反歩約左の如し
△既耕地上水田百二十圓、下水田四十圓、上畑地六十圓、下畑地五圓
△未耕地(草生地)上五圓、下二十四五錢

寄書

釋宗演禪師を聽く　亡羊生

京城日報主催の下に十六日夜廣通館に於て開かれた禪師一行の講演會は近時無比の盛會であつた、思ふに斯の如きは主催者は勿論講演者に於ても滿足に思つた事であらう。

定刻の至るや圓山太嶺師が壇上に現はれて開會の辭を述べた、圓山師は人も知る當地臨濟寺の主僧、其風貌の洒脫、其態度の綽々、口を開かざるに既に禪の何物たるかを語つた。師の說きしは心靈休養の必要、而かも言々語々ならざるが如くにして禪意を體し、吾人をして人はパンのみにて生くるものに非ず、宜く雲の糧に因つて生くべきものなりとの意味を十分に知らしめたのであつた。

圓山師に代り壇上に現はれたのは閻宮英宗師なるが此人年比較的若く從つて覇氣に富めるもの丶如し、師當夜の演題は梵語の「奢摩他」なりしが、其說きしところは應用禪にして、興味中々に深きものあり、但し間々生硬の嫌ある俗身談を挾みたるは遺憾なりし。

最後に壇上に現はれたるが、前圓覺寺の管長釋宗演禪師、當夜の聽衆は實に師に聽かんが爲に集まれるなりき。禪師徐ろに口を開く、曰く禪とは何ぞ曰く心なり、心とは何ぞ曰く妙なり、妙とは何んぞと滔々數千言禪の何物たるかを明かにせんと勉む。而かも禪は素之れ不立文字、老師の辯を以てしても到底徹底せしむるを得ざりき。師の演題は『進一步』乃ち百尺竿頭一步を進めよとの意、說く所巧妙該博、聽者をして轉た醉はしむるの慨あり。拈華微笑是れ釋尊の所爲、禪は乃ち是れなりとは老師の口より出でたるところ茲に到つて吾人頑鈍と雖も聊か禪の何物たるかを知ることが出來た。夫れ斯り吾人は師に因つて禪の何物たるかを知つた、師に因つて禪の何物かに觸れたのであるのだ。宗演師の恩や洪大なりと云ふべし。師の說や甚だ良し故に師にして吾人に說くに禪は心なり妙なりとの範圍に於て止めんか、師の當夜の講演は大成効であつた、焉ぞ知らん師は慈悲心の溢るゝところ之を抑ふるに由なかりしか、其講演の末段に至り、彼の若僧の顰に傚ひ、聞くも曖昧なる應用禪を說いた、師曰く平等即差別、差別即無差別と、而かも方便とは云へ其說くところは弱者の不平を抑ふるに急にして、一言の遂に强者の濟度に及ばなかつた。尤も師は最後に於て、差別ならざる平等は惡平等、平等ならざる差別は惡差別と云つた、併し師は斯く言ひしも、結論に至る迄遂に平等ならざる差別の惡差別なることを明かにせずして止んだ、嗚呼吾人は師を目するに强者に阿ねるの俗物と爲さず、而かも差別を說くこと師の如くならんか、强者は好い氣になつて倍々跋扈するならんと、遺憾に思ひつゝ聽聞を了つた。

之を聞く宗演禪師は精悍の人と、果して然らんか、當夜今少しく精悍の氣を以て聽衆に迫つて良かつたらうと思ふ。妄言多罪

●**商工調查會發會式** 會議所商工調查會發會式は既報の如く十七日午後二時京城商業會議所樓上に於て開催せられ列席者は來賓及會員八十餘名にして先づ深水副會頭開會の挨拶をなし次に來賓八田商工課長古城民長峯岸本社長の祝辭演說ありて後深水副會頭議長席に着き調查會の規定を附議可決し後立食の饗應あり古城民長の發聲にて商工調查會の萬歲を三唱し散會したるは四時なりき

●**釋宗演師講演** 既記の如く釋宗演老師一行の講演會は十七日午後六時より南大門通り廣通館に於て開會せり定刻に至るや圓山大嶺師開會の辭を述べ次で興宮英宗師は『奢摩陀』てふ題下に約一時間に亘る講演を爲し最後に釋宗演老師は『進一步』なる題目の下に最も有益なる講演をなせるが當夜の聽衆は男女約七百餘名にして頗る盛會なりし

●**領事團ご招宴** 寺內總督は十八日各國總領事を招き晚餐會を開く由は既報の如くなるが陪席者は各部長官檜垣長官國分局長柴少將等にして總員二十六名なりと

●**軍司令官の檢閲** 上田軍司令官は南鮮の守備隊檢閲の爲め十八日午前九時南大門發列車にて大邱へ向たり

●**日常品移入關稅割** 日本より朝鮮に移入せる諸物品の關稅割を揭ぐれば食料品にして五分稅に該當するものは麩、高野豆腐、蒟蒻、湯葉、蕃辛等の如きものにして寢臺、椅子、机、卓子、戶棚木製、火鉢等は八分稅に櫛、笄、花瓶、玩具、遊戲道具等は一割稅に竹柄杓コップ、サ、ラ、鰹魚節削等は五分稅に馬糞紙、塵紙、古新聞等も同じく五分稅に內地人建築用材料にして切組みたる自家用の材料も亦同じく五分稅に該當すべしといふ

民團稅制調查案(六)　杉山孝平氏の談

御尋ねの通り自分は民團より稅制調查を囑托され同調查委員の一人であつたが中途一身上の都合に依り辭退したのでこれといふ案もないされど自分は最初調查を囑托されたとき違ふ考へを持つて居つた一体自治体といふものは成る場所を限つての法人團体であるといふ名の上からのみいへば假令鮮人にも不拘京城はさうでない單に內地人部落に居住して居るにせよ自治体の組織上間然するところはないが自治体としての區劃を限られて居らぬから從つて課稅の上に於ても偏頗な點あるのみならず大体に於て自治の資格を缺いて居る假令ば本町道路擴張問題にしても幾分民團の負擔となる分は直接利害關係のある本町の居住者のみでなく一般の內地人に課稅さるゝ譯だか是等は公共とはいふもの丶直接利害關係のないものに取つては何んとなく馬鹿〱しく感せられはしまいか衛生費にしても然うである(尤も現今は民團には關係はないが)鮮人部落に住んで居るものにしてイクラ自分のところばから淸潔にしても側が不潔では駄目だ少しも衛生の目的は達せられない道は由來自治体としての區劃が定まつて居らぬ爲めである而して日韓併合の今日にあつては何の道民團は廢止さるゝことであれば道路費などは總督府に一任するが至當であらう唯自治体としては教育に重きを置き完全にして時勢に適應した學校を設くるが宜い教育費ならば少々位重く課稅されても各人が直接子弟の教育に關係ある事であるから異議なく納むる事は勿論である要するに稅なるものは納稅者をして遣ふといふ理由の下に納めなければならぬといふ觀念を確かならしむるが肝要である其の他家屋稅戶別稅等に就ては今之れといふ具体的の案もない貴問に對し甚だ漠とした答であるが一寸感想のまゝを御話した次第で……

●**道內務部長會議** 總督府は來る十二月十五日より五日間各道の內務部長會議を開催する筈にて目下準備中

●**十八銀行支店新築** 十八銀行京城支店は行務の發展に連れ從來の行舍にては狹隘を感ずるより先般行舍に隣接せる空地を買入れ建物百坪の設計にて來年早々建築に着手する豫定なるが全部竣工を告ぐるは來年末頃なるべしとのことなり

●**東拓移民地視察** 既報の如く德島縣阿波郡善入寺島の農民五百戶は東拓會社第三回の移民募集に應ずる筈なるが右移住地視察のため阿波郡長梶浦柳之助氏外四名は十七日本國を出發し十九日入京の豫定なりといふ

●**京城居留團墓地修理** 京城民團墓地は屯芝坊葛月里にあり坪數三千六十七坪なるも從來居留民の多くは火葬に附するを以て墓地を使用するもの至つて稀なるが民團にては本年度に於いて修繕費三百圓を投じ修理を加ふべしといふ

●**天長節と在鄕軍人會** 在鄕軍人會京城分會にては十一月三日の天長節には遙拜式を終りて後大運動會を催す計畫あり之に關し十八日京城第一分隊の講堂に於て委員會を開き打合せをなす由

●**宇佐川總裁歸任期** 北鮮地方を視察中の宇佐川東拓總裁は十一月十日頃歸任すべしと云ふ

●**倉富長官歸任** 司法事務打合せの爲め過般來上京中なりし倉富司法部長官には此程歸任したり

●**釋宗演師旅程** 目下滯京中なる釋宗演師は來二十二日當地發平壤鎭南浦新義州安東縣方面へ向ふべしと

●**米紳士の出發** 紐育日米協會々長ラッセル氏夫妻及び雜誌インデペンデレト主幹ホルド氏の夫妻は既報の如く十七日總督邸に於て午餐を受け各所を觀覽したる上十八日午前南大門發安東縣に向ひたるが奉天大連を經て再び日本に向ふ筈なり

●**拓殖局書記官入京** 拓殖局書記官廣瀨溫氏は滿洲よりの歸途十七日夜入京兩三日滯在の上歸東の筈

●**村田分隊長歸京** 管內巡視中なる村田第二分隊長は十九日歸京する由

●**市原鮮銀總裁の病狀** 市原鮮銀總裁は豫て病氣の爲め引籠中なるが差して懸念すべき程の事にはあらず[illegible]に向ひつゝありといふ

●**聯絡船の延着** 十七日の關釜聯絡船は暴風の爲め延着したるにより十七日夜着の筈なりし內地よりの郵便物其の他は延着したり

公人私人

△野木傳三(農林學校敎諭)十六日不二館へ
△中山友雄(皮革會社取締役)同浦尾へ
△靑柳有美(扶桑新聞記者)同浦尾へ
△川島浪速(北京民政部顧問)同巴城へ
△福地信吉(工學士)十七日ホテルへ
△佐々木敏綱(辯護士)同ホテルへ
△宗像十郞(技師)十六日鎭南浦へ
△須田實太郞(商業銀行頭取)十七日釜山へ
△川島浪速(北京民政部顧問)同仁川へ

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
十八日	二二二、二七二、四〇	九六五

▲茶袋▼

淸國の動亂も凄まじい勢で、四邊風を望んで起つと云ふ有樣である、而して叛軍が亂民の掠奪を抑制して紀律嚴肅な所あるを見ると其志中々侮り難い△此際中央政府の在る北京の狀態に、甚だ心許ない樣子が見ゆる、目下上下共極めて狼狽を極めて居る樣だ△南京、廣東、長沙などが既に叛軍の手に歸したと云ふ事は北京からの電報であるが、事實頗る疑はしい△それは兎に角、此大動亂の前途をトすべきは、淸國陸海軍大臣の率ゆる征討軍の奏功如何にありだ△今日の電報によると官軍武昌に到着し叛軍の頭領が逃げたと云ふ事であるがこれが果して事實とすれば案外に早く叛亂も鎭定するかも知れぬ△當地曹洞宗別院に於て、參禪者の爲めに提唱倦む所なかりし、田中遵園師は耳病の爲歸國する事となつて次の離詞を寄せられた『一曲離歌切、抱痾歸故鄕、濃陽香去後、楓葉飽風霜』△田中師の去る甚だ惜しむべしであるが、しかし師の後を襲いで當地に留錫せらるゝは北野元峯師といふ有名な高僧であるから又意を强ふするものなきにあらず△北野元峯禪師は東京芝愛宕下靑松寺の住職で曹洞宗屈指の名僧也、今や釋宗演師來つて講演を試ろみ、又た北野老禪師の駐錫を見るに至る京城の禪風從是益々振ふ事なるべし。

チャンピオン傳(八)

辻屋主人

松浦源治君

辻屋とは本町二丁目の和洋雜貨の大商店であると云ふことは當年四歳になる僕の所の子供でも知つて居る、此頃蓄音器や其音譜等を扱ひ出してから店頭更らに一層の賑かさを增した樣だ、君は民團議員にして商業會議所議員を兼ね衛生組長をして居る、斯くの如く多種の肩書を有するからであらう何事にも引合ひに出ること彼の同業青木堂君と同樣である、是迄は隨分不品行であつたが近來大に感ずる所あつて謹慎して居る、或者は之れを以て尺蠖の屈するは伸びんが爲めなり君の謹慎も又似た樣なものだと云つてるが夫はホンの座興の惡口である、松浦君は**青樓に歌舞遊宴**して居ても、**午後の十二時迄**には**必ず歸宅**して店から裏口の戸締まで嚴重に監督する如何に美しい妓に厚遇て居ても乾度時間には歸宅する、而して君の遊び振りは藝妓を遊ばせると云ふ方で決して無理を云つたり駄々を捏ねたりはせぬ相だが豈に圖らんや夫れは其野心を滿す方便であると、と云ふのも餘りに穿ち過ぎた話だ、君の若遊三仕込みの踊は頗る鮮なもので就中『見島高島』は得意とする所である、一度起つて此を踊ると一座は先づ沒物椀に蓋をし刺肉、鹽燒の皿に蓋なきを唧たしむる程で手拍子足拍子とも神に入つたものだ、と思つて居るのは御當人だけで見た人は案外感心して居ない、嗚呼天消是耶非耶と云ひたい位のものである、然れば此れは到底チャンピオンとして紹介する價値が無い、されば妻君と手に手を取り交はし鶺鴒の番ひの夫れの如に肩押つ付けでた芝居見物**家庭圓滿五穀成就**れ裘山吹黃金の花が咲いて榮ゆる商賣繁昌と云ふれ安くない所で紹介しようか、併し此れは今日迄君が花柳界に浮名を流して居ただけに實際以上に人目を惹くのであるかも知れぬ、として見ると君子は危きに近よらずモウ少々長い眼で拜見した上の事と致す、と何も彼も難附けて仕舞つて扱さらば何のチャンピオンと致さうかと考へて見ると有るワ有るワ大に有、君は大の葡萄酒好きで五六本迄なら何時でも引受ける『葡萄酒なら何人にも劣らん心算です從つて種々のものを用ひて試ましたが私は**メルマン葡萄酒が諸種の中で一等佳良**だと思ひます……六本迄なら何時でも』と云つて葡萄酒飲用家のチャンピオン然として居るが其實は豈圖らんやである、葡萄酒の好な事は事實であるが君の言ふ意味は他にあるのだ、凡百機會を捉ふるに敏なること敬服の外はない、玆に**廣告法會得のチャンピオン**として紹介する、斷つて置くがメルマン葡萄酒は君の所で販賣して居るのだ(終)

●薄月夜渡雁金

▽便待つ秋の長き夜

本町一丁目の北内君に落籍された元花月の君江拍子が再勤運動の内幕は一寸報道した通りなるが其後トンと音も沙汰も無きに君や病氣にでも罹つてるのぢやないかと時候柄心配性の兎耳子が探つて見ると此は又如何な事北内君夫れ以來君江に逃げられるか又は花月から再勤でもされた日には事情が事情だけに男の一分相立たず親元の要求通り三百圓は調達して遣るから決して左樣な短氣を起して呉れるなと威しつ賺しつ拜みつして因果を含めて目下日の出小學校附近の某家に預け嚴敷監視を附して金策中なるが爲め扱て一時沙汰止の姿なりとぞ、然るにても君江如何に薄情稼業をして居たとは云へ一旦自身も承知の上で落籍され又親の無心の假令半分にても背いて呉れた北内君を袖にして水臭い再勤沙汰なぞを持ち上げたのには既報の事實以外の事情なかる可らずと探つて見たるに北内君には氣の毒だが君江はソモ〳〵から末永く御世話に成つて居る氣は無かつたので、折があつたらと云ふのが君江の北内君に對する根本政策なのだ即ち生ま若もと云ふ人は龍山守備隊附の中村とか云ふ大尉さんで此の落籍沙汰の起つた當初は恰も田舍に出張中だつたので相談も出來ず落籍されて居れば身は自由だ戻られたら相談の上での了見、とは知らない中村君歸るや直ぐに花月に馳け着けて見るや君江は北内と云ふ町人に落籍されたと云ふ、懸ては總督にも成れる軍人が町人に負けて堪るものかと一時は大に憤慨したが考へて試ると君江の爲めには至極の仕合せ決して怒る所に非ずと流石軍人の潤然悟つたが何とも云はずに此儘別れるのも殘り惜しい氣もし幾分は斯う妬?どちやないが嫉ましくも思はれるので『曾つての契を反古にして加かも僕の不在中人もあらうに町人に落籍されとは恨みなり併し夫れは僕の私情れ前樣の身に取つてはれ芽出度う』特に『れ芽出度う』と云ふ字を大きく書いて君江に逢つたら之れを渡して呉れと仲居のれ君に一封の手紙を托して淋しく龍山へ歸つて行つた(つゞく)

●賣られたる僞志士

△憤慨して强盜となる

慶尙北道豐基郡下里面縣村當時京城北部諫洞二十六統七戸居住侍天敎々徒尹山一郞事張壽浩(三七)及慶尙北道聞慶郡東魯所面水坪里一統七戸侍天敎々徒尹聖允(四二)等は元一進會員の有力者として李容九と共に十數年來義兄弟となり國事に關し東西奔走せし者なるが李容九が今日の境遇にあり且つ多大の蓄財あるにも係らず其の部下同志に對し一文の救恤をも爲さゞるを憤慨して一面李容九に恥辱を與へ金員を奪取せん事を相謀り本年六月二十二日京釜線成歡驛に下車し同夜忠淸南道稷山郡北面巳洞にある李容九の亡父の墳墓を發掘し頭蓋骨を取り出し之を京城北部三淸洞の山中に藏匿し七月二十三日より八月十五日迄の間に於て數回李容九に强迫狀を送り金十萬圓と引替へに該頭蓋骨を渡す可しと强請し一方李容九は日本内地に旅行中に付家族に於て調金中にて目的を果さずして其筋に檢擧され兩角檢事の手にて取調終決强盜犯として公判に付せられたり

●多之助綾之助を食ふ

▽不心得な母親かな

原籍下の關細工町一七七遊藝人桔梗綾之助事福山よね(三二)は去十五日仁川本町一丁目旅宿花屋に幼兒を伴れ投宿し翌十六日京城の氏名不詳の者より金二圓の電報爲替を受取り午後七時頃榮亭の藝妓榮吉に一寸所用あるによ暫時の間此の子と此の行李を預かつて置いて貰ひたいと言捨て三味線入の信玄袋を携ね花屋を出てしまゝ今以て歸り來らず子供は五才の男子なるが母に捨てられしには非ずやと目を泣き腫らし居るより同家にても持餘し十八日仁川警察署に屆出でたりと因によねは浪花節芝居の多之助に引懸りしには非ずやの說あり

●馬頭山上の落花狼籍

▽强姦犯人逮捕さる

中部長通坊中谷洞四十五統十二戸理髮職李元來(三二)東部蓮花坊登子洞三統三戸人力車夫朴聖元(四〇)は共に去る八月二十九日京城日報主催日韓併合紀念祝賀提灯行列に參加し歸途朴召史金召史の兩少女を東部觀測所馬頭山に連れ行き强姦して京城地方裁判所に於て懲役五年に處せられ服役中なるが李元來は逃走中なりしも十六日東部署刑事に逮捕され目下取調中

●トンダ石川五右衛門

▽高等女學校階上に潜伏

山口縣大津郡仙崎村當時住所不定立野正一(三三)は十七日午後七時頃高等女學校二階に潜伏中を宿直教員に認められ警察に引渡され拘留十日に卽決

●謀殺未遂犯人の起訴

▽内縁の妻を淸凉里にて

山口縣人當時吉野町三番戸土方職稻田紋藏(三〇)が内縁の妻桶上しま(三八)を東大門外淸凉里閔妃の墓地に於て絞殺せんとしたる事件は豫審終決して兩角檢事の手にて謀殺未遂犯として公判に

●無責任なる人親

仁川寺町二丁目二十五番地ノ十三大工職普平の妻佐藤よそ(三六)は夫普平が鎭南浦地方へ出稼不在中産後血の道及黃疸病併發し起居自由ならず八才以下の小兒四人を抱へ泣暮し居るに普平よりは更に送金なく困窮の狀は見るに堪へざるものあるより仁川民團の中津監視より救護方願出でたれば取調の結果這般仁川醫會より申出たる施療劵を下附されたり

●嫉妬から大亂暴

本籍兵庫縣神戸市花熊町三百二十九番屋敷當時龍山大島町四十番戸無職新濱龜太郞(三八)は知人なる同町四十四番戸材木商岩崎好之(六二)が自分の妻きく(三九)と怪しき關係あるものゝ如く疑ひ十七日大酒氣を帶び好之の方に侵入し暴れ居りたる處を巡回中の巡査に取押へられ龍山警察署に引致せられたりと

●酒を飲で叱らる

大分縣人當時北米倉町理髮職手島朝七(二七)同縣人當時相生町大田秀吉(三五)山口縣人當時南山町一丁目京城郵便局配達夫取締竹本久次郞(三九)等は秀吉方に於て飲酒の末喧嘩をなしたる爲め南部署に於て說諭放免

●亂暴して拘留五日

旭町一丁目別府組車夫鹿兒島縣人谷山辰三郞(三二)は十七日午後十一時頃本町一丁目裏通り本田旅館前にて同家雇人松岡良平に暴行を働き菊鉢二個を破損して南部署に突き出され拘留五日に卽決

●日の出湯大改良

當地旭町一の同湯は今回野村吉三郞氏の手にて營業する事となり目下浴場は勿論階上に休憩室となし娛樂的設備をなす等總て大改良を加へ十七日より開業せり

●鮮人車夫を撲る

熊本縣人當時旭町一丁目二八番戸山副昇(三二)は鮮人車夫金公善を毆打負傷せしめ南部署に訴へられ目下取調中

●演藝だより

▲壽座 十九、二十の兩日開演する後藤一座の代狂言は大倉桃郞作『琵琶歌』全九場にして重なる役割は左の如し

西村令太(内田)花浦令孃菊江(松下)小學敎員武田貞二(藤野)三藏妹里野(藤田)貞二母れた(深津)父政次、江島春次郞(雪岡)荒井三藏(後藤)

▲浪花館 れ馴染の福圓一座十九日夜の出し物番組左の如し

兵庫船(枝輔)ヤカン(小ゑん)イハイ(圓松)太神樂(福樂ゑん猫)白(圓三)五人廻し(芝鶴)娘奇術(喜代子)住吉駕(福圓)切習劇總出

本願寺經營行路病者收容所の三十分(五)

白面子

仁丹の十粒に氣分を快復した僕は歸途南部署に今村署長を問ふたが生憎署長は不在であつたので井口警部に會つて前記收容所の現況を物語ると同氏は本願寺の無情と民團當局者の冷淡な事を憤慨し更らに彼等被收容者即行旅病者なるものは憐れむべきものであると思へばこそ本願寺でも民團でも彼の收容所を經營し補助して居るのであらう、既に之れを必要とし經營する以上は彼樣不潔極る事では馱目だ現在自身(井口氏)視察の際も惡臭に堪ゆ得なかつたので歸署後直ちに人夫を連れて淸潔法を施行した程であつたと語り更に昨年の冬も警察の方で見るに見兼ねて衣類其他の寄附を誘導して正月をさせ今夏は御存じの通り署の方で盡力して單衣を着せたのです、斯うして**他人が干渉箇間敷い事**を爲ても**本願寺の僧侶達は平氣**で自分の不行屆を愧とも思はず結局世の中は調法なもので却つて手數が掛らなくつて宜い位に思つて居るらしいと嘆ずる、僕曰く本願寺は其**宗旨が他力本願**で何事もアナタ樣任せ……但し借金丈けは信徒任せに出來上つて居るのですから夫れが彌陀の本願かも知れませんねと云ふと井口氏は洒落れちやア困りますよと苦笑して居たが『全くモ少し何とか致したいものですが御盡力を願ひます』と云はれる、南部署を辭してから收容患者の診療受け持の**漢城病院**に**安藤院長**を訪ふて收容患者診療上に就て不親切との非難の聲がある事、衞生上の施設に就ても相當干渉されたき事等を述べた所が安藤院長は『有難い御忠告深謝の他は無い』と旬を切つて扱實は御言葉迄も無く**收容所の不完全**な事に就ては**輪番衆**に對し此れ迄幾度となく**意見を述べ**たが毎時も豫算が無いと云つて聞き入れない、然らば**病室**を漢城病院内に移されたい萬事實費で引き受ける、と迄申しましたが**病室を本願寺境内以外に移**したら**寄附が無く**なるからとて應じないのです……寄附金は隨分ある相ですがね、と云つて安藤先生は口を噤んだ、本願寺たるものは收容所に對する寄附會品の出入を明にすべきであらう。先日の事とか三宅貞雄なる一患者は事に依つて一重病患者を蹴飛ばしたとか爲め被害者は診斷書を請求したとか此なぞも其監督保護の屆いて居ない證據である(つゞく)

▲行路病舍より▼

十六日三名の美人が訪問された何用あつてと問へば『私共は淸華亭の者なるが新聞を見て同情に堪へず何か寄贈したいと思ひますが取敢へずれ見舞だけに』と吾等は感淚に咽びました(記者云)右は取調べの結果淸華亭の**政菊**、**鶴羽**、**金五郞**の三妓にて同家内の有志とも相談の上慰分慰問の意を表せんとて目下計畫中なりと

廣告

いよ〳〵大賣出し
綿類蒲團は元より呉服部大擴張の御披露として
自十月十九日
至十月廿七日　九日間
例の通抽籤にて二割引より色々
店一本も空籤なしの御高評是非共御來店の程を願います
山まゆ織全部品揃當時大高價の蒲團綿も同樣大割引の大奮發で御座います
京城明治町一丁目(電話二六一番)
∧唐川呉服店

◉半島空前の大著述!!
東洋拓殖會社總裁男爵宇佐川一正君題字
總督府農商工部殖産局長菊池武一君序文
總督府勸業模範場長農學博士本田幸介君序文
李王職事務官津輕英麿君序文
朝鮮銀行總裁市原盛宏君序文
日韓瓦斯電氣會社專務取締役岡崎遠光君序文
京城梶川商會主　梶川半三郎新著
實業之朝鮮
豫約募集
本書は早稲田大學出身の靑年實業家梶川半三郎氏が夙に半島の實業に從事し深く朝鮮の經濟事情を硏鑽せる結果三星霜の長日月を閲して漸く完成したる一大雄編なり其の該博の識暢達の文而も材料は豐富調査は細緻其の評論は忌憚なく餘蘊なし頗ふに朝鮮に關係ある者甚だ鮮からざると雖も其多くは机上の空論にして本書の如く實際家の著述は殆ど絶無と謂ふも溢言にあらず眞に半島空前の著作たり在鮮の邦人は勿論苟も朝鮮の實業に志ある者は必ず一本を座右に備へざる可らず
製本体裁　菊版總『クロース』金字入◉紙數六百餘頁◉朝鮮實業地圖挿入◉目次入用の向は申込次第進呈す
豫約代金　正價金二圓五十錢◉豫約代金二圓◉製本引換拂込の事◉京龍以外の地は代金引換小包にて郵送す但送本費二十錢の拂込を要す◉豫約部數五千部限
申込期限　十一月二十日(期限後は正價に復す)◉製本出來期限十一月二十五日(但申込順に依り送本す)
豫約申込所　京城本町二、日韓書房◉本町四、町田文林堂◉永樂町一、朝鮮研究會事務所◉南山町二、梶川商會支店
廣告申込所　京城明治町一丁目萬年社
發行所　京城永樂町一丁目三十四番地　朝鮮研究會　電話一九三〇番
大販賣所　東京神田區裏神保町　三省堂
◉朝鮮經營の羅針盤!!!

入院隨意夜間九時まで診療
京城支那領事館前通り
皮膚病 花柳病　佐藤醫院　電話一一七三番
院長　前福岡醫科大學皮膚病梅毒泌尿生殖器科敎室　醫員　佐藤伊藏

改名
∧三商店の御披露
各位益々御淸穆奉南山候偖て先般漢陽商會として營業開始仕候處鐘路通りに同一名の歐米雜貨商にて漢陽商會なる店舖有之營業上甚だ面白からざる儀と存じ今回協議の上當店の商號を∧三商店と改め一層確實叮嚀迅速秘密に御用相勤め候間倍舊御愛顧の程奉希上候追て主任理事者は從前の通りに御座候間既に發行し來りし權利證書類は其儘にて差支無之候間此段爲念申添候　敬白
大阪株式取引所仲買加富士商店
大阪米穀取引所仲買大森商店　特約店
營業課目　有價證券　現物賣買　株式定期　期米取次　信託業
漢陽商會改　∧三商店
京城旭町一丁目廿七番地(歌舞伎座前)
電話一七六九番　電信略號(ヤ)

●諸公債諸株券現物賣買

迅速確實に御取扱可申候

兼業 既製洋服卸小賣 諸官衙御用達

京城本町三丁目

大坂野村總七代理店

田中友吉商店 電話九九三 電略(タ)

今回金露樽詰孤印の改定と同時に品位の大改良致候間御披露旁々普く御愛飲各位の御試用に供し度左記の方法に依り破格の勉強を以て賣出し致候に付最寄販賣店にて御購求御愛用の程奉希上候

金露壹舛瓶詰景品付大賣出し

景品目録

總數金露一升瓶詰二千四百本

一壜に付金七十錢(賣出し後は金七十五錢)

賣出し期間 自十月十五日 至十一月十四日 一ケ月間

一等 純銀煙管 三十本　二等 煙草入 六十個

三等 卷煙草入 百二十個　四等 錢入 二百四十個

五等 タオル 四百八十筋　六等 郵便ハガキ入 六百個

七等 郵便ハガキ貳枚宛 九百包

總數二千四百點(空籤なし)

⊙金露空瓶七本を賣出し期間中に御持參の御方へは本瓶詰酒一本と交換可仕候

大塚京城支店

京城明治町一丁目 (長電話四〇番)

特約販賣店 (いろは順)

永樂町二丁目 村島商店 電話一五四四番

本町二丁目 日下部商店 電話一二二番

本町三丁目 山本商店 電話一四〇八番

本町四丁目 前田酒店 電話一三七番

南大門通り二丁目 遠藤商店 電話九八二番

本町七丁目 淺野商行 電話四九七番

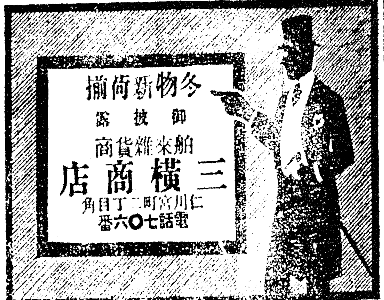
本町二丁目 佐藤牧商店 電話二九番

本町七丁目 酒井商店 電話五八七番

飲めば氣持よくなる

必ず懷中せよ何人も

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 千六十八番 振替口座京城十六番



冬物新荷揃 御披露 舶來雜貨商 三横商店 仁川宮町二丁目角 電話七〇六番

キリンビール

◎一文字咲◎狂咲◎牡丹咲◎

大小鉢植一尺以上の菊花種々有御望の方へは安價分賣仕候

今や盛の菊の花 ▲縱覽無料……▲數千百鉢

大和町三丁目政務總監邸前 七福花園

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

朝鮮銀行

電話 參壹番 壹貳六〇番 壹貳六壹番 六壹貳番

支店出張所(大坂、仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣)

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

一子相傳 不思議藥

必ず子供の出來る 靈藥帶孕散

説明書に依り説明の要點を堅く守りて服藥せば婦人病者又は永年子なき人も

子なき婦人は速に試よ効驗直に現る

(申込次第説明書無料送呈す) 東京市本所區緑町一丁目 堀越頒藥部

●十月二十日より開園 ▲入場料五錢

觀菊御案内

▲ビヤホールの設備仕居候

京城西大門外 金華園

京城南山町二丁目 (伊藤組南に入る) 小倉齒修所

はてな 腹工合が變だと思う時

▲二粒のヘルプを服用すれば 腹も痛まず 下痢も起らず

▲惡疫を未然に防いでまあ良つたと

▲百人が百人ながら喜び

ヘルプはホントに轉ばぬ先の杖

●ヘルプの創製者柏村博士の最も苦心せられたるは下痢止めの即効劑たると共に腸胃を健全ならしむる點にあり故にヘルプを服用すれば腸胃の抵抗力を强め消化を助けて總ての機能を敏活ならしむ隨つてヘルプ常用者の腸胃中には赤痢コレラの如き惡疫菌も決して生息する能はざるに至る是れヘルプの特に誇りとする所也

効能 ◉痢病◉腸胃加答兒◉時候あたり◉寢冷◉腹痛食傷 吐瀉◉水あたり◉腸の瓦斯◉其他腹等一切の下痢を止め腸胃を整へ惡疫を防止す

定價 一圓・五十錢・卅錢・廿錢・十錢

本舖 東京市日本橋區本銀町三丁目 津村敬天堂

●取次は全國到る所にあり

冬物大賣出し

拾月拾五日より同貳拾壹日まで七日間

右期日中新柄取揃へ大賣出し仕候御買上げ金高に應じ相當の御添物進呈可仕候

尚見切反物並に釣切等澤山準備仕候

山口呉服店 京城本町四丁目 長電話九番

山枝呉服店 京城本町五丁目 電話二二四番

圓城呉服店 京城本町三丁目 電話一五七番

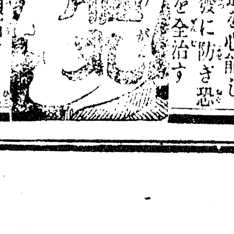
惠阪呉服店 京城本町二丁目 電話七二六番

末永呉服店 京城本町四丁目 電話六八二番

神經をしづめ腦病を全治す

島村醫學博士の有効證明を得たる健腦丸は、腦病神經病に奇効を奏し逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ恐るべき腦充血を全治す

腦病全治新藥

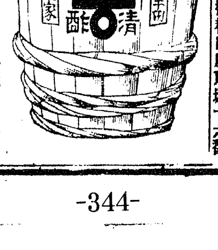


記憶力惡き人 頭痛する人 神經衰弱にて氣分鬱ぐ人 常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也

(定價 一日分十錢、三日分廿五錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金三圓)

本舖 大阪心齋橋二丁目 丹平商會藥房 分店 大阪平野町堺筋北 丹平商會分店 支店 東京日本橋通 丹平商會支店 各地有名藥店に取次す

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 千六十八番 振替口座京城十六番



特約販賣店 仁川 高雄支店

弦齋流割烹 す津祢 南山町一丁目 電話千五百二番

入院隨意 京城壽町三丁目(電話三七八番)

中島醫院

院主醫學得業士 中島貞信

十月中 瀛船出帆廣告

安來丸 屯串行 十月 日前 時

天草丸 海州行 十月廿二日前二時

成歡丸 留島行 十月 日前 時

海利丸 海州行 十月十八日前九時

成歡丸 大湖芝行 十月二十日前八時

仁川本町四丁目 電話一七三番 七一〇

合資會社 秋田商會船舶部